



寺院の持つ「場」の力

人間学部長・臨床心理学科 教授 伊藤 直文

浅草寺に、教化部が所管する浅草寺福祉会館という機関があります。様々な文化活動に加えて、電話や対面による相談活動を行っており、私とその事業に関わって20年近く経ちます。無料相談で、治療的な働きかけをするわけではありませんから、基本は一回限りなのですが、それでも折々においでになるお馴染みの方も少なくありません。受け付けた相談のうち、相談員にとって、理解が難しかったり、対処に困ったりしたものを2～3ヶ月に一度、一緒に検討するのが私の役割です。

「福祉」会館なので、生活上の支援を求めておいでになる方もおられるのですが、多くは家族、親族の人間関係が絡んだ一筋縄ではいかない

悩みが語られます。職場、近隣とのトラブル、自身の性格上の悩みも多いようです。相談者の年齢、性別、社会的立ち場も幅広く、精神的な病いが疑われる方も数多く来られます。

病院などの専門機関に治療目的で来られる方々とは違って、生活の中で悩み、怒り、悲しみ、執着している様をそのまま持ち込んでこられるので、私のような心理専門職にとっても、「世に棲む」精神障害者たちの生き生きした日常を学ぶ良い機会になっています。精神的に病んでいるところはあっても、人として生き、悩む同じ人間なのだとなつくづく感じさせられます。

さて、このように幅広い来談者ですが、共通しているのは浅草寺という

BSR 通信

BSR 推進室ニュースレター第 24 号

平成 28 年 3 月 10 日

発行：大正大学 BSR 推進室

〒170-8470 東京都豊島区西巢鴨 3-20-1

03-5394-3079 (直通)

bsr_lab@mail.tais.ac.jp

目次

- 1 頁：巻頭言
- 2 頁：研究ノート
- 4 頁：さざえ堂だより／今後の予定

存在に惹かれてきていることでしょう。

ほとんどの方が、参拝、祈祷や写経の会などの参加を縁に相談に来られます。ですから、人とのつながりを大切にしたい、大いなるものに自分を委ねたい、信じたいといった、謂わば人間性の善なる共通基盤が見えるように思われるのです。それは、精神的に健康であるか否かを問わずにそうなのです。多くの方が、公的機関や会社や医療機関などでの扱われ方に傷つき、怒り、他方で自らを悔いて、何か大きな存在に受け止められたいと思っ

ているようです。標題で「場」という言葉を使いましたが、これは物理的、具体的な場所という意味ではなく、何らかの力によって、そこに生じている人を引きつける

雰囲気や人に所属感や居場所の感覚を持たせるしつらえのあり方を指す、ある意味で心理学的な言葉です。

心理臨床の現場では、そうしたものを如何にして用意するか（場づくり）が大きな課題ですが、寺院という場は自ずからそうした人の心をひ

らき、平穏を感じさせる条件を満たしているように思います。

悩み多く、つながりの希薄さを感じることの多い現代、寺院における相談活動の可能性はますます大きくなっていると感じています。



研究ノート

宗教者の社会参加

臨床宗教教育の広がり

日本臨床宗教師会

設立記念シンポジウム

2月28日、龍谷大学大宮キャンパスにおいて、日本臨床宗教師会設立記念シンポジウム（主催：日本臨床宗教師会、臨床宗教教育ネットワーク、上智大学グリーンケア研究所、東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座、龍谷大学大学院実践真宗学科。協力：愛知学院大学、高野山大学、種智院大学、鶴見大学、武蔵野大学）が開催されました。

シンポジウムは、高木慶子シスター（上智大学グリーンケア研究所特任所長）による基調講演「臨床宗教師が日本で根づく教育」にはじまり、各大学の臨床宗教教育における取り組み

の報告、日本臨床宗教師会設立の経緯・目的の説明など4時間以上にわたる充実した内容でした。

当日は、宗教者、宗教学者、医療関係者など300名近くの聴衆が訪れ、臨床宗教教育への関心の高さがうかがえました。

日本臨床宗教師会（Society for Interfaith Chaplain）とは？

そもそも日本臨床宗教師会とはどんな組織なのでしょう。そのきっかけは東北大学で開講された臨床宗教師養成講座にさかのぼります。

2012年、東北大学大学院文学研究科実践宗教学寄附講座において理論教育と臨床実習を組み合わせた臨床宗教師研修がはじまりました。すでに修了者は150人を超え、全国各地で活動しています。

臨床宗教教育の取り組みは、2014年度から龍谷大学、高野山大学、鶴見大学でも開始され、さらに2016年度からは愛知学院大学、種智院大学、武蔵野大学でも実施される予定です。

このような臨床宗教教育の全国展開にもなって、各臨床宗教教育講座修了者の連携・連絡を促進する組織が必要になってきました。さらには、医療施設、福祉施設で必要とされる新たな専門職として実践を行うため、継続研



修の提供、継続研修にもとづく認定資格（「認定臨床宗教師」）などをめざして設立されました。

また、臨床にかかわる宗教者の倫理の統一もこの組織を通じてはかられます。布教と疑われるような行為はないか、自身の宗教観とは異なる相手の価値観を尊重できるか、公共空間での活動はこのような点に留意しなければならないということです。そのために倫理規定を設け、現場に携わる宗教者の質を高めようとしています。

各大学の教育カリキュラム

倫理規定に先立って、質の担保に欠かせないのが教育カリキュラムです。いったい、どのような講義や実習がどのくらい行われているのでしょうか。

ここでは2014年から行われている龍谷大学、高野山大学、鶴見大学の教育内容を紹介したいと思います（東北大学実践宗教学寄附講座のカリキュラムについてはBSR通信第3号をご覧ください）。



龍谷大学では大学院実践真宗学研究科内に「臨床宗教師研修」が設けられています。実践真宗学研究科入学者の必修研修ではなく、オプションとして開講されているものです。

高野山大学では東京別院を中心に大学院の教養講座として開講されているようです。ただし、週 3 日の集中講義（1 日 9 時～16 時、90 分×3 回）を基本としたカリキュラムであり、半期、または通年で学ぶというスタイルではありません（※大阪サテライトキャンパスの同大学別科スピリチュアルケアコースは半期・通年にわたるカリキュラムで開講されています〔履修期間 1 年、受講資格高卒以上〕）。

どちらも大学卒業者以上を対象としていますが、浄土真宗や真言宗の僧侶のみを対象としたものではなく、他宗派・他宗教の聖職者（または信徒の

相談に応じる立場にある者）の受講を認めています。

一方、鶴見大学の臨床宗教師養成基礎課程は趣が異なります。その特徴をあげれば、①大本山總持寺の修行僧を対象としたものであること、②コミュニケーション教育（自己理解・傾聴）に重点を置き、実習などは行わないことの 2 点があげられます。

しかし、今後住職等の実務経験者や養成基礎課程の修了者を対象とした養成専門課程、実際の緩和医療の現場で実地経験を積む養成臨床課程を他機関と連携しながら準備する予定であるといえます（鶴見大学先制医療センターHP より <http://ccs.tsurumi-u.ac.jp/irep/religion/index.html>）。

臨床宗教教育の可能性

龍谷大学では「真宗人間論研究」が必修科目に、高野山大学では「密教学」が基礎科目に入っているように、

カリキュラムには各大学の特色が反映されています。また、内容、時間数もそれぞれの教育機関によって差があります。

日本臨床宗教師会には、これら各教育機関での研修・講座を入り口とし、当会が主催するフォローアップ研修を受けることで認定資格へとつなげようという意図があります。今はまだ、ネットワークを広げる時期かもしれませんが、ネットワーク間での連携、とりわけカリキュラム水準の均一化は今後必須の課題になっていくでしょう。

多死社会を迎え、医療施設や福祉施設、在宅ケアの現場で宗教が求められることも少なくありません。臨床宗教師の取り組みが、対価を得られるものになるのか、あくまでもボランティアに留まるのか。質の担保はその際にも重要です。社会との窓口として、日本臨床宗教師会は大きな役割と責任を担っています。（T）

〈龍谷大学大学院 臨床宗教師研修〉

必修科目（5 科目 12 単位）

臨床宗教師総合実習（通年 4 単位）
グリーフケア論研究（2 単位）
ビハーフ活動論研究（2 単位）
実践真宗学研究（2 単位）
真宗人間論研究（2 単位）

選択必修科目

（10 科目中 2 科目 4 単位以上）

真宗教義学研究（2 単位）
現代宗教論研究（2 単位）
宗教心理学研究（2 単位）
宗教教育学研究（2 単位）
生命倫理論研究（2 単位）
人権・平和論研究（2 単位）
カウンセリング論研究（2 単位）
地域活動論研究（2 単位）
臨床心理学研究（2 単位）
精神保健学研究（2 単位）
実践真宗学研究科 HP より (http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/graduate/practical_shin/curriculum/rinsho.html)

〈高野山大学大学院 臨床宗教教養講座〉（カッコ内は学習時間）

基礎領域

仏教学（18 時間）
密教学（18 時間）
寺院経営学（18 時間）
宗教学（18 時間）
臨床心理学（18 時間）
社会福祉学（18 時間）
相談心理学（18 時間）
死生学（18 時間）

専門領域 A

生命倫理学①②（18 時間）
宗教人類学（18 時間）
宗教心理学（18 時間）
ガイダンス・
スピリチュアルケア論（18 時間）
スピリチュアルケア学（18 時間）

専門領域 B

宗教間対話（18 時間）
仏教芸術学演習（18 時間）
密教学演習（18 時間）
スピリチュアルケア演習（18 時間）
高齢者福祉実習（40 時間）
臨床宗教学実習 1（30 時間）
臨床宗教学実習 2（30 時間）
臨床宗教学実習指導 1・2（60 時間）
宗教間対話実習（60 時間）

専門領域 C

グループスーパービジョン
個人スーパービジョン

さざえ堂だより

——さざえ堂ノートより——

冬季はさざえ堂の参拝者数も少し減ってしまいます。それでも平日は 30～40 名、週末は 100 名ほどの方にお参りいただいています。

その参拝者を出迎え、案内・説明しているのが「お堂番」です。現在、シニアのお堂番が 6 名と仏教青年会を中心とした学生お堂番 10 名ほどが務めています。お堂番の皆さんには「お堂番ノート」という日誌があります。その日にあった出来事等を記録して、情報共有をはかるとともに感じたことなどを綴ってもらっています。またお堂番同士の交流の場ともなっています。平成 25 年 9 月から、現ノートは 4 冊目で、とても興味深いものです。

さざえ堂には、実に沢山の方がお参りします。毎朝、9 時の開扉と同時に参拝する近所の男性、近所に来た際には必ず立ち寄る老女等の常連の方、地域散策のサークル、

そして通りすがりでさざえ堂を見かけてお参りいただいた方等、様々です。

お堂番の皆さんはそれらの方々を案内するとともに、コミュニケーションを図ります。ある日、近くの学校の入試の合格発表での残念な結果を見てうなだれているお嬢さんとお母様がいました。お堂番さんは色々とお話を聴き、もらい泣きしてしまったそうです。そしてさざえ堂に案内したところ、涙を拭いて気を取り直して帰って行ったというエピソードが書かれていました。また、親御さんの介護の苦労を吐露していかれた方のことも書いてありました。このような、お堂番の皆さんの高いホスピタリティにより人々の苦労に耳を傾け、寄り添っていただいている様は、まさに菩薩行であり BSR（仏教者の社会的責任）のあるべき姿であると思います。（M）



今後の予定

3月11日（金）	2時30分	東日本大震災物故者回向・復興祈願法要	
3月15日（火）		学位授与式	
3月19日（土）	11時～12時	花会式 春休み特別企画	鴨台観音堂前
	9時～13時	あさ市	南門 けやき広場
	13時～15時	お坊さんカフェ「僧話花」	5号館 1階
4月16日（土）	11時～12時	花会式	3号館
	9時～13時	あさ市	南門 けやき広場
	13時～15時	お坊さんカフェ「僧話花」	5号館 1階

卒業おめでとう



巻頭言執筆者 紹介

伊藤 直文（いとう なおふみ）
 大正大学 人間学部長・カウンセリング研究所長・臨床心理学科教授
 立教大学 文学部 卒業
 立教大学大学院 文学研究科修士課程 修了
 専門は、思春期の逸脱行動や非行犯罪の心理臨床ならびに家族臨床（家族間の紛争）。

巻頭写真

3号館ロビーに飾られた卒業祝花
 本学客員教授 小原流家元 小原宏貴 作